

第2回 嘉麻市中小企業振興審議会 会議要録

審議会の名称：第2回嘉麻市中小企業振興審議会

開催日時：令和4年11月1日（火）10時00分～12時00分

開催場所：嘉麻市役所本庁舎 委員会室

公開又は非公開の別：公開

非公開の理由：（会議を非公開にした理由）

出席者：（委員）

日高 健 委員 北川 裕之 委員 大里 信義 委員 中村 博美 委員

大田 岱次 委員 益田 政利 委員 中野 勝己 委員 吉安 勝行 委員

大野 繁治 委員 柳瀬 智幸 委員

（事務局）

産業振興課 課長 篠崎慶太 課長補佐 高井 朋仁

課長補佐兼商工係長 田口美紀 商工係 白石 莉菜

公益財団法人 九州経済調査協会 藤井、平松、原島

（欠席者）

大里 岳 委員

中村 瑠梨 委員

傍聴人数：0人

議 事

1. 事業者アンケート等の結果報告について

事務局より、嘉麻市中小企業振興基本計画実態調査まとめ概要^{別添 1}を基に説明

【統計】

- ・嘉麻市は事業所数が減少。一人当たり市民所得も福岡県平均、市部平均と比較して低い
- ・地域経済循環率も近隣自治体と比較して低い

【アンケート】

- ・経営課題として仕入れ価格・電気料金等諸経費の高騰、新型コロナウイルス、従業員の確保難などが上位
- ・事業承継については、「自分の代で廃業するので承継は考えていない」（34.8%）が最も多く、次いで「後継者が決まっており、後継者本人も了解している」（23.2%）の順
- ・嘉麻市では、デジタル化の取組みが進んでいない
- ・行政に求める支援施策は、「人材育成・確保に関する支援」、「設備更新への支援」、「資金繰り支援」などが上位

【その他】

- ・ヒアリングの聞き取り状況、課題の整理(SWOT 分析)を説明

【質疑など】

（委員）

福岡県でも DX を重視しており、今年度補正予算で中小企業の DX を推進するための施策を打っている。福岡県中小企業生産性支援向上センターで補助金執行やアドバイザー派遣事業などを行っている。

（委員）

DX 化を進めることは大事だが、デジタル化することが目的になっているところも多い。生産性向上など、何のために DX 化をする必要があるかを認識してもらう必要がある。

（委員）

大手の 100 人規模の従業員がいる企業ではデジタル化は必要な取組だと思うが、従業員が 5～6 人ぐらいの規模の企業でわざわざ電子化を進める必要があると思えない。大工、畳屋、味噌屋など嘉麻市は職人が多い。DX 化は立派なことだと思うが、嘉麻市の企業に尋ねたら必要ないと答える企業が 7～8 割になると思う。DX 化よりも中小企業に指導やアドバイスなどきめ細やかなサービスをするほうが重要だと思う。

（会長）

DX化は必要ないと思っている企業が多いと思うが、周り（取引先など）がDX化を進めていっている中である程度は対応していかないと取り残される状況になる。細かなサポートとDX化の両輪が必要になる。

2. 第二次中小企業振興基本計画の骨子について

事務局より前回との変更点（今回新たに提案する施策）を理由とともに下記資料を使って説明

（資料）

・嘉麻市中小企業振興基本計画 骨子 資料 1

・嘉麻市中小企業振興基本計画 骨子（新旧対照表） 資料 2

・【骨子新旧対照表 変更に関する説明資料】 資料 2 補足

○重点施策の提案

- ・デジタル化促進に向けた支援
- ・雇用の創出・維持に向けた支援（事業承継）
- ・中小企業の製品、技術及びサービスに関する情報提供、事業者同士の連携促進
- ・公共事業における市内中小企業者の受注機会の拡大
- ・地域の中小企業への就労促進（企業と大学・高校・高専の連携）

【質疑など】

（委員）

デジタル化は従業員規模が大きいほどメリットがあると思う。家族経営や小規模の企業がデジタル化の取組みをすることによって状況が良くなるという例示を示すことが出来たら、デジタル化が進むかもしれない。

（事務局）

小規模企業のDX事例は結構存在する。有田の陶器市がコロナ禍でリアル開催が出来なくなった時にオンライン開催をすることになった。販売側は、60～70代の高齢の人が大半であったが、県の補助金や商工会などの専門家派遣制度を活用して、デジタル化の取組みを進めたところ、オンラインでの売上目標を1億円といていたところが実際は2億円を超えた。また、リアル開催では客層として、福岡都市圏や佐賀市内の50～60代の人が多いが、オンライン開催にすることで東京、大阪の若い女性が参加（購入）するなど新しい販路が開拓された。この成功体験があったために、現在はリアルとオンラインで併催している。

（委員）

地域通貨で（市内外の人に関わらず）1万円チャージをしたら市として500ポイント付与するなど、インセンティブを付けたら嘉麻市で買い物をするようになり、地域経済が活性化すると思う。プレミアム商品券においても、紙より電子の方でプレミアム率を高くするのもいいのではないか。電子通貨は、接触の必要がなく売買できるので、進めるならコロナ禍の現在がチャンスだと思う。

（会長）

嘉麻市は、マイナンバーカードの普及率が、近隣市町村と比べて高い（令和4年5月時点で普及率50.7%）。マイナンバーカードを取得された方に嘉麻のカマデポ（電子ポイント）を付与するなどの取組みを先行的に行ったことは、強みでもある。地域内の個人需要に関わるようなDX化の取組みだと言えるのではないか。個人消費を増やして地域内循環を高めていく取組みである。地域通貨の促進など、具体的な個別施策に入れ込んでいくと良いのではないか。

（委員）

どんな企業にも困り事やこうしたいという要望があると思う。その困り事や要望を解決するためにデジタル化を進めていくことで効果が上がると思う。企業によっては、何に困っているか分からないところも存在するので、そういった所は中小企業診断士などの支援を受けることで困り事も把握できて、そこからデジタル化に繋がることもあると思う。

（会長）

各論的な施策として、デジタル化に対する認識を高めること、デジタル化の相談窓口を紹介することなどが挙げられるのではないか。会社の規模や業種によって、進められるデジタル化は異なってくるであろうが、嘉麻市に合ったデジタル化を進めていくことが大事だと考える。

（委員）

アンケート結果で、自分の代で廃業を考えているのが34.8%と高くなっている理由は、自分たちが苦勞してきたから、子供たちには同じ苦勞をさせたくないからだと思う。やはり企業全体が元気になっていかないといけない。M&Aなども一つの手段だと思うが、現状として、技術やノウハウを持っているが、後を引き継ぐ人がいない、そういう企業も多い。

（委員）

嘉麻市には、非常に大きな企業がないことも課題の1つだと思う。割と大きい企業は存在するが、非常に大きな企業があれば、地域の企業が下請けとして事業を引き受けることができ、市全体が城下町として地域が潤うのではないか。

（委員）

若い人はずっと安定して生活していけるような職業を中心に仕事探しをすると思うの

で、中小企業でも活気のあるようなところでないと定着しないのではないかと。

(事務局)

若者を地方の企業に呼び込むために、SDGs 的な経営を入れることも 1 つの手ではないか。現代の若い世代は、社会課題をビジネスで解決したいという人が明らかに増えている。安定性や給料面の待遇も企業選定の条件かと思うが、若者の一部は、就職活動の際にこの企業が何を目標しているのか、何をやるのかというところも見ている。社会課題の解決や、SDGs 経営に取り組む企業も一つの訴求力になるのではないかと。

(委員)

嘉麻市は農業が盛んな地域であるが、近年、荒れた田畑や竹藪が増えている。SDGs 的な観点で、地域の課題に取り組む企業を育てていくのは一つの方法となる可能性がある。

(会長)

嘉麻市内では、農業や環境系のベンチャーを若手が立ち上げるといったケースもある。例えば、嘉麻市の地域資源を活用し、シカ肉加工を行い、ジビエ普及を行う企業などがある。

(会長)

自分の代で廃業するので承継を考えていないという人が 34.8%いる一方で、後継者が決まっている、または後継者候補がいる企業を合わせると、37.0%となる。ここに着目してもう少しサポートしていく必要がある。

(委員)

市が発注する事業の一部は、市外の事業者が契約を結び続けているケースが目立つ。指定管理においても、地元の企業が契約を取れないという実態がある。地元企業が契約を取れない理由は、実績重視の審査が行われているからだ。他の市の話を聞くと、プレゼンの参加要件において、地元企業には加点するような手続きを行っているという。しかし、嘉麻市においては実績が重視されているため、新たなチャレンジをしようとする地元企業が契約を取れない状態が続いている。確かに中小企業の振興を考える中でデジタル化の取組みも、企業努力として重要だが、事業の発注のあり方を根本的に直さないと嘉麻市が活性化しないと考える。現在のプレゼン、プロポーザルのあり方、地元企業の受注状況なども把握しながら、審査を進める必要があるのでは。

(会長)

市からの発注に関して、契約の仕方などの実態調査は可能か？

(事務局)

(市から発注する公共事業の) 市内事業者の受注状況について、昨年度の実績で調査しているため、次回の審議会で提示したい。受注機会の拡大については、前回の計画では、「施策を推進するための取組み」に入れていたが、今回の計画では、「推進する施策」のなかに入れ込むことを提案した。これまでの審議会の進捗状況に関する議論でも、公

共事業の発注について市内事業者も受注機会の可能性を拡大すべきではないかという意見が上がっていることを踏まえて、今回の計画では「推進する施策」の取組みに記載している。何処まで踏み込んで記載するかは今後の課題となるが、産業振興課としてはこれまで以上に積極的に市内事業者に発注する仕組みを今回の計画の中に明記したいと考えている。

(会長)

企業選定において、何が何でも地元優先となってしまうと、能力がないところ選ばれてしまう可能性もある。大事なのは能力が重視された選考となることではないか。一方、実績が必要となってしまうと、実績がない企業は排除されてしまうため、そのあたりを適切に評価する仕組みが必要なのではないかと考える。

(委員)

直方市は地域経済循環率が非常に高いため、数値が高くなっている理由を調べてもらいたい。

(会長)

嘉麻市の場合は、飯塚市との経済的なつながりが大きいので、その点は考慮が必要であろう。飯塚市と嘉麻市がそれぞれ得意なところを分担する形になれば、バランスが取れるが、一方的に嘉麻市が飯塚市に依存する形となると課題もある。前回の計画策定時も議論したが、嘉麻市だけで経済的に独立できれば良いという話では決してないと思う。飯塚市と良い関係を築いて行く必要がある。それを念頭におきながら、市内で受注を拡大できるような仕組みを考えて行く必要があると思う。そのためには、市内事業者の育成、能力の適切な評価の両方の仕組み作りが重要なのではないか。

(事務局)

市内事業者に市から発注行為が来たときに単純に下請けにはいるだけでは、技術的なノウハウや知識が集積されていかないという課題がある。先進地では、例えば大きな工事については、必ず地元企業とのJVが要件になっているなど、大きな企業と地元企業がタッグを組む仕組みがある。そのような中で、地元企業は大企業のノウハウを習得していく。現在の嘉麻市の課題として、地元企業にいかに知識・技術等を集積していくかということもあるので、そのような仕組みもこの計画の中に記載したいと思っている。今後、内部で調整が必要であるため、どこまで計画に書き込むかは未定であるが、方向性としては上記を想定している。

(会長)

学生が目指している企業の大半は大企業や有名企業である。一方で、やりがいを見つけ探そうとしている学生もいる。学生が地元で面白い企業があるということを認知しておらず、企業がPRする機会もない。また、大学の授業の中でも教える機会がないため、地元企業の説明機会を作るのもいいと思う。

(委員)

稲築東中学校の生徒に職業の紹介をしてほしいという依頼が市の産業振興課からあった。生徒たちにどういう職業があり、どういったことを工夫しているかなどを説明して欲しいとのことだったので、現在、企画調整中だが12月2日(金)にイベントを実施予定である。会員企業に声をかけて12企業が集まったが、体育館に集まって12ブース作る。ブースを1年の全生徒47名が5人一班になって回っていく。そこで仕事の内容や必要な資格、仕事の辛さややりがい、中学校の時にやっておくべきことなど、夢などを約10分経営者に話してもらい、生徒が約5分質問することになる。地域にどういった職業があるのかを学ぶ良い機会だと思う。

(委員)

今年は、「夜もKAMA さわぎマルシェ」を開催した。市役所の前の駐車場を借りて実施したが、こういった所で中学生や高校生にテストマーケティングをしてもらうなどを来年度以降考えている。

(委員)

今までは、職業体験として学校から企業に2~3名来ていたのが、コロナ禍で受入が出来なくなった。そこで、今度は逆に企業の方が学校に来て話をするということになった。来年度、今回の取組みがうまくいけば、他のところにも波及するのではないか。これの高校版や大学版が出来てもいいと思う。

(会長)

以前、小学生向けに地元産業の知識を深めるための副読本作成に携わったことがあるが小中学校向けの働きかけも重要だと思う。子供が企業に行って話を聞いて、企業の特徴とかをメモして報告をまとめるような取組みを行っているところも多い。

(会長)

ある大学では、長期インターンシップを含んだカリキュラムの「ベンチャー起業論」という有名な授業を実施している。1年近く、大学生が特定の企業に定期的に通って、課題を見つけ解決策を提案し、実行するというをやっている。これは福岡市内でやっているが、このような取組みを嘉麻市の企業に協力してやってもらうのも良いかと思う。

(委員)

中小企業において、新卒が来てくれないだろうと半ば諦めている経営者も多い。高卒者を採用したいと思って企業がPRに行っても、学校の先生に全ての裁量があつてなかなかハードルが高いようである。その他、高卒者と採用したい企業の直接マッチングを行っている企業もある。

(会長)

ここでも、採用したい企業と学生をマッチングさせる仕組みというのが重要になる。検

討を宜しくお願いしたい。

3. 次回開催：令和4年12月14日（水）10：00～

以上